セーフティーベスト（濃紺）

セーフティーインナーベスト

safety&coolTシャツ（半袖）

業界最高水準の耐刃防護生地で社会に貢献

サクセスプランニング 株式会社

耐刃セーフティー前掛け（ズボンタイプ）

耐刃セーフティーエプロン

耐刃テッコー

耐突刺手袋

企画・提案　試作・受託　短納期対応　多品種少量　量産対応　コスト相談　オンリーワン

耐刃防護機能で
安全で安心な社会を実現します

代表取締役社長
揚野 雅史さん

「安全で安心な社会の実現！」を目指し3年余りの時間をかけ、業界最高水準の耐刃性・耐摩耗性を有する「耐刃防護生地」を独自開発しました。耐刃防護生地を使用した衣類やエプロンなどを作っています。社会情勢が悪化し、子供や女性を狙った犯罪、タクシー運転手やコンビニを襲うといった「窮乏型犯罪」が増え、そのような被害から人を守りたいとの思いから開発を進めてきました。最近では鉄工所、ガラス加工、精肉会社など「労災防止商品」としての役割も果たすようになり産業分野への商品を拡充・強化しています。

主な事業内容
耐刃防護生地を使用した衣類、エプロン、手袋、帽子などの製造・販売

主な取引先（納入先）
官公庁、タクシー会社、警備会社、金属加工会社、ガラス加工会社、タイヤメーカー、畜産加工会社など

【住　所】〒571-0042 大阪府門真市深田町1-6-202
【T E L】06-6907-9071
【F A X】06-6903-3741
【創　業】平成15年10月　【設　立】平成15年10月
【資本金】930万円　【従業員】3名

事業内容と沿革

切れにくい・刺さりにくい生地で身を守る衣類を

切れにくい・刺さりにくいという特徴を持つ「耐刃・耐突刺防護生地」を使用した衣類・エプロン・手袋などが主力製品。平成15年創業で3年余りもの時間をかけて業界最高水準の生地を作り出した。「女性や子供を襲う事件が多発し、小さな子供を持つ親として、他人事とは思えずかけがえのない大切な命を守りたい！」という揚野雅史社長の強い思いから開発が始まった。いわゆる防弾チョッキに使われる素材などは当時からあったが、海外製がほとんどで入手が困難であった。また国内の繊維メーカーによる高強度原糸の一般向け卸売は通常行われていない状態にあった。そのような中、生地製作の研究過程で知り合った京都西陣織組合を通じて国内大手繊維メーカーより耐刃防護生地の原糸となる超高強力ポリエチレン原糸を入手するルートを確立。揚野社長は「新規市場の拡大を模索する京都西陣織組合と、命を守る商品を作りたい我々の思いが合致した」という。また、「厳格な西陣織りの商標管理の中で京都以外で「京都西陣」を名乗れる許認可を得れたのは同社製品だけだ」と、商標である「京都西陣 yoroi」にも製品としてのプライドをうかがうことができる。

強み

すべてがメイドインジャパンのプライド

耐刃防護生地を製造するに際し、すべてにおいてメイドインジャパンにこだわる。生地の原材料となる超高強力ポリエチレン原糸は国内大手メーカーより供給を受け、原糸を加工用糸に作り替える撚糸の工程、織り工程、編み工程、縫製工程のすべてを国内の協力企業で行う。特に重要となる織りの工程は京都西陣で100年以上の歴史を有する（有）フクオカ機業（京都市上京区）が行う。同社はカーボンなどの先端繊維の加工を得意とし、今回の耐刃防護生地作成において全面的な協力を得ることができた。また縫製は地元・大阪府門真市で多品種小ロット生産を得意とする北次（株）に委託することで品質管理を徹底。出来上がった耐刃防護生地は（一財）カケンテストセンター（東京都中央区）で検査し、必要十分な強度を持つよう徹底した品質調査を行っている。「ことあるごとにカケンテストセンターに製品を持ち込み、納得できるまで検査を行い、結果を確認した。徹底した品質管理で耐刃防護生地というジャンルで実績のある海外メーカーに対抗できる製品が提供できている」と揚野社長は自信をみせる。その品質の高さから平成19年には文部科学大臣賞も受賞した。また衣類としては珍しく大手保険会社の協力を得て「商品付帯傷害総合保険」も全商品にサービスでつけている。

カドマイスターの取り組み

現場の声を徹底的に拾い上げるものづくり

耐刃防護生地を完成させ、子供向けの帽子やジャケットなどを制作したものの、「期待するほどの売り上げはなかった。また、子供の成長に合わせ単価の高い衣類や帽子を毎年買い替える顧客もいなかった。製品ありきのプロダクトアウトの流れになっており、市場調査がおろそかになっていた」と原田政則専務は発売当初の状況を振り返る。そこで徹底した調査を行うことを第一とし、製品が使用される現場に足を運んだ。農業分野での活用方法として浮かんだ耐突刺防護生地で作った手袋は、柚子等柑橘類のとげのある植物の青果を扱う際に必要となる強度・しなやかさ・耐水性などについて徹底的に研究した。機能のみならず価格も重視し、現場で使用する人が購入しやすい価格に抑えられるよう流通過程の無駄を省き、取扱店の協力も得た。そして原田専務は「儲けを考えたらダメ。まずはみなさんに使っていただき農作業を安全に行ってもらいたい。そのうえで製品を評価してもらいリピートにつながればいい」という考えに至った。

今後の展開

産業分野・医療分野に進出

近年は労働災害が発生する金属加工会社やガラス加工会社などからの問い合わせも増加している。プレス機や研磨機の使用中で金属片が飛び散り身体に突き刺さるといった大きな労働災害が発生する状況下で「セーフティエプロン」が活躍している。大手タイヤメーカーでは、実験室で鋭利な刃物を使用する為、エプロン着用を義務づけている。またNC旋盤を所有する機械加工会社ではドリルや刃具を交換する際に加工機内部で装着済みの他の刃具・ドリルで腕を切る・刺すなどの事故が発生していることから、耐刃防護生地で作られた保護シートで工具を覆いかぶせることにより事故を未然に防止している。今後は「加工工場だけではなく、工作機械メーカーにオプション品として機械導入時に売り込んでもらえたら」と原田専務は次の展開を見据える。また耐突刺手袋は使用済み注射針などが混じっている医療廃棄物の取り扱いにも応用でき、関西の大学病院と共同開発を継続している。

http://www.kyotonishijin-yoroi.jp/